



2024年2月
第746号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 ○四六三(32)八八三一



拒んでも救われています

平塚教会牧師 北川一明

(あなたがたは) 洗礼によって、キリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。

(コロサイニ・12)

神学校では「救いの客観性」を教えられました。クリスチャンとは、イエスを「神の子、救い主」と信じる人のことをいいます。そこで、キリスト教を熱心に学んでそう信じたら、洗礼を受けていなくてもクリスチャンだと考える人がいます。しかし神学校は、それではクリスチャンではないと教えます。

私たちは自分の思いや考えが当てにならないことを良く知っています。洗礼を受けずにクリスチャンだと言っている人は、一時的にイエスを「神の子、救い主」と信じつつもりになっているだけで、いつ「やっぱり違う」と

言い出すか分かったものではありません。

洗礼を受けていても信仰が萎えることはありません。それでも洗礼は sacrament (聖礼典) なので、神の洗礼に与ると神がクリスチャンになってしまうのです。私たちクリスチャンは、自分で頑張ったわけでもないのに、神さまが、いわば勝手に救うのです。

救いの客観性は、人権の客観性に似ています。読者のみなさんは「人権は大切である。人間は平等である」ということを知っているのでしょうか。知識として知っているのではなく分かっているのでしょうか。それともみんなが大切と言うから漠然と「きっと、そうなんだ」と思っているだけでしょうか。

人間は、たぶん平等です。男でも女でも、金儲けが上手でも下手でも平等です。誰が何の権威で平等と決めたのかは別として、また現実に平等かどうかも別として、少なくともキリスト教会は平等であると主張してきました。

他人に配慮ができてできなくても、性格が良くても悪くても、人格が高潔でも劣悪でも、居るだけで人を幸せにしても居るだけで人を不愉快にしても、それで

目次

拒んでも救われています
牧師 北川一明 …1
2023年クリスマス礼拝記念写真30秒前
…3

幼稚園のクリスマス 青山純子 …4
教会学校のクリスマス 倉持啓子 …4
世界祈祷日集会 …4
編集後祈 …4

も「神の前では人格価値は変わらない」と教会は言っていました。

タテマエをタテマエのまま安全な場所から主張しているのは、偽善者とみなされて、せつかくの正しい理念も侮蔑の対象になりかねません。タテマエと現実と摺り合わせ、社会が受容し易い言い方で主張すればスマートです。目標と自分自身の現実とを摺り合わせると整理がついていきます。

理想と現実を摺り合わせるには、現実を直視する必要があります。濃厚で思慮深く、常に配慮のある人格者Aさんと、性格が劣悪で人を傷つけても平気で、居るだけで常に周囲を不愉快にするBさんがいたとします。Bさんが妬みか単なる意地悪で、Aさんの心と体を回復不能なまでに傷つけた…そんなことがあった上で「人間の価値は平等です、AさんとBさんの人格はどちらも尊重されるべきです」と言われても、なかなかそうとは思えません。

私はキリスト教文化が「人権は大切である。人間は平等である」と主張し続けてきたことを知っています。戦後、国連が世界人権宣言を採択したことも知っていました。しかし人権が大切かどうか、人間が平等かどうかを私は分かっていません。ただ

人権は大切である、人間は平等であると信じていることにしています。

みんながそう言っているからではありません。世界人権宣言も、「世界」を標榜するものの、世界規模で賛同を得ているわけではないようです。人権と平等を信じているのは、神が重んずべきとおっしゃっていると考えるからです。

キリスト教によれば、人間は神の前では平等なのだそうです。だから人格は尊重されなければならぬのだそうです。劣悪で、人を傷つけても平気で、居るだけで周囲を不愉快にするBさんのような人格であっても、人格である以上尊重されなければならぬようです。

人格を本気で尊重するならば、いわゆる二重人格（解離性同一性障害）の場合は、ジキル博士的（善的）な人格とハイド氏的（悪的）な人格と、両方の人格を尊重しなければなりません。

実際にはハイド氏は迷惑です。そういう人に出会った時には「本来はジキル的人格の人なのに、障害でハイド的人格が表れることがある」と考えたくするのが人情です。社会は都合の良いものを尊重し、不都合な

ものは排除したいからです。

ただそうなる（社会が今のようにならな問題ないかもしれませんが、貧しくなると疎外されるようになります。障がいを負った人はますます生きにくくなります。頭が良くて金儲けの上手な人は尊重され、頭が悪いと排除されます。

自分にとって迷惑な人でも神さまの前で価値が低いかどうかは、人間ではなく神がお決めになることです。人権は大切なか、人間は平等なのかを、私たち人間は実は知りません。分かっていません。神に示されて知る信仰の事柄です。

自分自身の救いについても、人権や平等と同様に、神に示されて知る信仰の事柄です。自分で「信じている」と思う自分の思いが当てにならないように、自分で「もう信じられない」と思う否定的な思いも当てにはなりません。一時の、または永い気の迷いかもしれません。私たちは一度は「主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩み」たいものです（コロサイ二・6）。



2023年12月24日クリスマス礼拝記念写真30秒前

幼稚園のクリスマス

11月も中旬になりクリスマスが近づくと、皆どこか心がウキウキしてきます。「今年もサンタさんは来るかな?」「ページェントでは何をやりたい?」

クリスマス曲も少しずつクラスから聞こえはじめます。

年長さんでは、今年一人ずつ自分の贈りたい物を考えて家族に贈ることになりました。「どんなものが良いかな」「何をあげたら喜ぶかな」一人ひとり目をキラキラさせながら考えて作り始めました。宮崎扶子先生もミシンで教えて下さることにしました。年中・年少さんも幾つかの素材を使った物の中から自分で選んでプレゼントを作り始めました。他にも、教会のツリーに飾るオーナメントやアドベントカレンダー、クリスマス礼拝でお捧げする献金瓶を作り、一日一日クリスマスの日を心待ちに過ごしました。

クリスマス礼拝の日、今まで一生懸命に練習したページェントを中心に、保護者の方と共に礼拝が行われました。年長さんでドキドキ緊張していた子ども達も生き生きと自分の役を努めました。年少さんの可愛い羊、「メェー」の声に皆から笑顔がこ

ぼれます。年中さんは、星と聖歌隊の役になりました。敵かな内にイエス様のお祝いを心から祝し、礼拝が終わりました。

楽しみにしていたサンタさん登場です。皆の目はサンタさんに釘付けです。ページェントを貰い大満足!! そして一生懸命に作ったプレゼントを保護者の方と交換しました。贈る人を想って準備し、作ったプレゼントは格別です。子ども達も保護者の方を作ってくれたプレゼントに大感激! とても楽しい素敵なお祭りとなりました。

(文責 青山純子)

★教会学校のクリスマス

11月も半ばを過ぎると、CSのクリスマスで頭が一杯になる。まもなく朗読劇の台本が仕上がってきて全体の流れをつかむ。プレゼントは、庄司さんと関口さんが準備する。私の役は、ほとんどないけど気がかりな事が増えてくる。

以前のことはすっかり忘れただけ、今回は前年とほとんど変わっていないかと思ふ。

「クリスマス会で、一番楽しかった思い出は?」なんていきなり聞いても、子ども達からは、どうでもよい答えしか出てこな

い。

今じゃない。今じゃない。子どもは成長していく。大人になっていく。そしてふと浮かぶ。一生忘れられないような深い瞬間。本人だけが止めている瞬間。聖句・讃美歌・牧師の話・そこにいた友だち・教会に行く途中の風景・教会から眺めた風景かもしれない。いやいやもつと意外なこともかもしれない。神聖とはいいたい事。でもそれもひっそり神聖な瞬間だと思ふ。

そういう瞬間をためてほしい。できればたくさん。

(文責 倉持啓子)

◎世界祈祷日集会

「パレスチナからのメッセージ」
日時 三月一日(金) 10:00~12:30
会場 日本基督教団茅ヶ崎恵泉教会
お話し 細井宏一伝道師
(日本基督教団茅ヶ崎堤伝道所)

【編集後祈】

元旦の能登半島地震には心が痛みます。被災地の皆様が主に癒され、一日でも早く復興がなされますようにと祈ります。

(編集子)